

令和8年度さいたま市立向小学校【学校教育目標】

かしこく やさしく たくましく なかよく

令和8年度 学校経営方針

さいたま市立向小学校は、AIの進化や社会の急速な変化により将来の予測が困難な時代において、子どもたちが自ら未来を切り拓き、幸福な人生と豊かな社会を創造できる力を育むことを目指します。そのために「Well-being（幸せ）を保障する教育」を基盤とし、**自主学習力や人間関係構築力、主体性・自立性**をはぐくむことを重視します。

また、多様な特性を持つ子どもや不登校児童、外国にルーツをもつ児童を含め、**誰一人取り残すことなく、強みや可能性を引き出すエンパワメントの視点**で「今の幸せ」と「将来の幸せ」を保障する教育を推進します。教職員も前年踏襲にとらわれず、時代の要請に即した教育実践に取り組みます。

この目標達成のために学校教育目標である「かしこく（知） やさしく（徳） たくましく（体） なかよく（コミュニケーション）」の具現化を図り、児童一人ひとりが夢と希望をはぐくみ、主体的に学び、未来を切り拓く力を育む教育活動を展開し、三つの力をもった子どもたちにを育成していきます。

＜育てたい力＞

かしこく（知）	・・・Growth Global・・・自分の考えをもち表現する力
やさしく（徳）・なかよく（コミュニケーション）	・・・Grit Global・・・自分も人も大切にする力
たくましく（体）	・・・Grit Growth・・・あきらめず粘り強くチャレンジする力

＜めざす児童像＞

- かしこく（知）Growth Global → 自分の考えをもちあきらめずに勉強する子ども
- やさしく（徳）Grit Global → 思いやりの心があふれるやさしい子ども
- たくましく（体）Grit Growth → 心身ともにたくましく粘り強い子ども
- なかよく（コミュニケーション）Grit Global → だれとでもなかよく過ごす子ども

＜めざす学校像＞「夢と希望をはぐくむ 楽しい向小」

児童の笑顔があふれる学校

教職員が全力で児童に力をつける学校

学校・保護者・地域が協働して児童に力をつける学校

＜めざす教師・教職員像＞学び続け、指導力をつけ、プロとしての誇りをもつ教師

一人ひとりのよさを認め活かす指導

学びあい、悩みあい、相談しあい、学び続ける教職員

- ・心に響く指導（声掛け（話し方）指導後の見届け、確認）
- ・子どもを「やる気」にさせる指導（多角的で粘り強い支援を）
- ・「ヘルプ」が自然といえる学級経営・学習指導（インクルーシブな環境づくり）
- ・「わかった」「できた」を実感させ、さらなる意欲の向上へつなげる学習指導
- ・子どもの多様性を認め違いを認め合う集団づくり（リーダーの育成 折り合いをつける力の育成）
- ・同僚から、子どもから、保護者から学ぶという姿勢
- ・一人で悩まず組織で解決（向小スタンダードをもとにして教職員全員で共通行動）

＜向の地域で子どもたちに育てたい力＞コミュニティスクール（学校運営協議会）

人と人とのつながりを豊かにする力

粘り強くチャレンジする力

<今年度の重点目標>

キーワードは「主体性・自立性」と「本気」

○誰一人取り残さない教育、個別最適な学びに向けて、積極的な取組の実践

※子どもが「主体的に、本気で学ぶ授業」を創造し、

子どもたちの「Well-being」の実現

具体的には

- 当事者意識をもって、本気で教育実践に当たる
- 自立を促すコーチング力で子どもを伸ばす
- 授業も休み時間も、児童と本気で活動し、指導・支援できる
- 教職員相互の連携を深め、協働して職務を遂行する
- 授業規律や生活規律を大切にできる

1 当事者意識をもって、本気で教育実践に当たる

○基礎基本の確実な定着（わかる授業→「よい授業」）

○児童がやる気をもって学習に取り組めるように支援する

- ・授業規律（時間で始まり時間で終わる） ・ユニバーサルデザイン
- ・「教科書を」教えるのではなく、「教科書で」教える
- ・「まず授業」を合言葉にし、よい授業を意識して学習指導を行う。
- ・「わかったこと」「自分の考え」を言語化できる子を育てる。
- ・基本的な読み取りの力の育成→クリティカルシンキング
- ・「分からない」が いえる授業・学習環境
- ・ICTの効果的な活用 ・教科担任制（高学年）による教科指導力の強化
- ・横断的な学習・・・STEAMS・SDGs→創造、探求、協同での学び
- ・学力の底上げ→分かりやすい授業 個別指導の充実（学習支援T.T・SA・）
- ・教師同士が授業を見合い学び合う。（一人一回の授業公開）

2 児童一人ひとりを大切にする（教師がまずお手本）姿勢

○自然と気持ちのよいあいさつを交わせる児童に

○いつも児童に寄り添い、児童理解に努める（複数の目で確認・情報交換）

○児童に所属感をもたせ、自己肯定感・自己指導能力・集団や社会の一員として認められていくための過程を大事にできる力延いては自己実現を図る力を育てる。

- ・子どもの多様性を認め、違いを認められる集団づくりを。
- ・すべての子どもたちが、自分のよさに気づき、活躍できる場づくりを。
- ・子どもの目線に立った指導、見届けの徹底を。
- ・目をかける（些細な変化変容を見逃さない）。
- ・声をかける（話を聞く→安心を与える→居場所をつくる）。
- ・指導は、納得させ、心に響かせる。
- ・悩み事や相談をしやすい環境づくり（教室や相談室の活用 SC、SSW、さわ相による相談）

3 楽しく笑顔あふれる学校づくり

○「心を潤す4つの言葉」をもとに、お互いのよさを認め合える力を育てる。

○児童が期待をして取り組めるよう行事を工夫し、笑顔あふれる学校づくりをする。

- ・あいさつ運動 「心を潤す4つの言葉」 登下校時のあいさつ 会釈のできる児童
- ・ぽかぽか言葉の推進

- ・努力や過程を認め、好きなことも苦手なこともやり抜く力を伸ばす教育活動をする。児童同士も認め合う姿勢を醸成する。
- ・リーダーの育成 意図的にリーダーを育てる視点をもって日々の教育活動にあたる。委員会、クラブ、行事等で自主性や主体性、自治力を育成する。
- ・業間休み、昼休み、教員も児童もみんな一緒に活動
- ・情操豊かに美しい心を育てる。歌声や音楽が響き合う学校。美術や児童の作品を展示する。
- ・読書活動の推進（学校図書館の活用 読書の時間）

4 美しくきれいで安全な学校づくり

○事故やケガが少ない安全な教育環境

○ゴミが落ちていない、傷や落書きゼロ

○花・緑のあふれる環境整美

- ・丁寧な安全点検 修繕箇所の適切な対応 危険個所の感知
- ・廊下歩行キャンペーン
- ・清掃活動に力を注ぐ 熱心な清掃活動を認め紹介 清潔感ある学校 教室のホコリゼロ
- ・児童机や施設の傷や落書きを見逃さない。
- ・四季を通じて、花や緑とふれあえる環境

5 保護者・地域に教育へ参加してもらおう働きかけ

○保護者からの相談には真摯に対応

○行事や授業参観など、保護者が学校へ足を運ぶ機会を大事にする。

○地域の教育力の活用

- ・保護者との対話、児童の情報交換を綿密にする。
- ・児童の課題は、しっかりと事実を伝え、保護者と連携・協力して指導をする。
- ・懇談会の工夫を行う。
- ・PTA、SSN、学校運営協議会、地域の方々の協力・支援に感謝し、意見を真摯に受け止め、指導や教育環境づくりに反映させる。

6 教職員一人ひとりを大切にした職場づくり

○抱え込まない、組織で対応（同僚の支援と上司の支援が溢れる職場に）

○まず教職員が笑顔で楽しむことが「楽しい学校づくり」の基、職員の「和」を築く。

- ・「辛い所に手が届く」職員集団、気軽に相談、困ったときはお互い様の精神で協働・協調。
- ・仕事に自信がもてず、悩む隣人がいる。組織対応を基本とし、人に任せない職場にする。自分のクラスの課題・他のクラス・他の学年の課題は同じ課題であるという意識で。コミュニケーション、あいさつ、報告・連絡・相談・確認、そしてケース会議。
- ・結婚、出産、育児、受験、病気、介護等、ライフステージごとの悩みに理解のある職場。